



令和 3 年 2 月 22 日

第二管区海上保安本部

海上保安庁初の測量機が就役!

海上保安庁初の海洋調査を主任務とする測量機*が 2 月 22 日に就役し、第二管区海上保安本部仙台航空基地に配属されました。

今後、測量機*は仙台航空基地を活動拠点として、国内沿岸域での航空レーザー測深機による海洋調査等に従事します。

測量機は、海洋調査を主任務とするため、搭載する航空レーザー測深機の精度検証、慣熟訓練等の期間を経て、令和 3 年 6 月末頃(予定)に海洋調査の運用を開始します。運用開始の時期に前後し、就役機の披露を予定しており、披露の開催、実施日が決定しましたら別途お知らせします。

※ 機番：MA 8 7 1 (通称：測量機)

型式：ビーチ 3 5 0 / 愛称：あおばずく

任務：航空レーザー測深機で水深を測る航空機であり、特に船での調査が難しい浅い海域を広範囲にわたり効率的に測深を行う。(別紙参照)

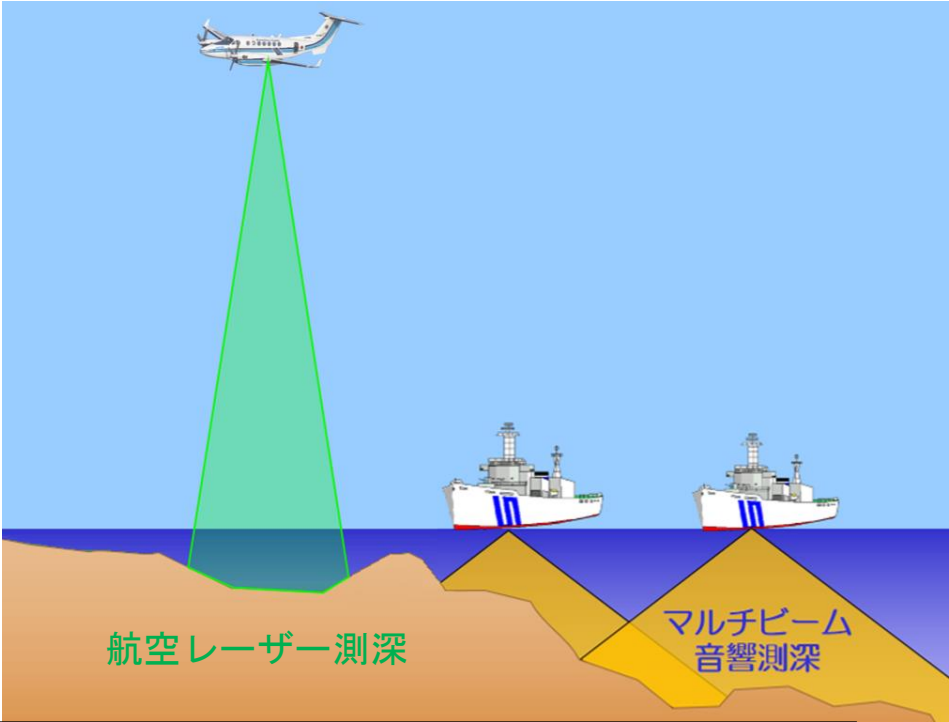
(測量機：あおばずく)



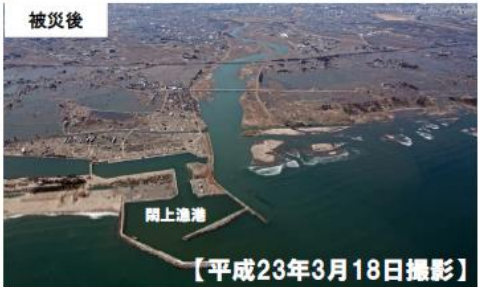
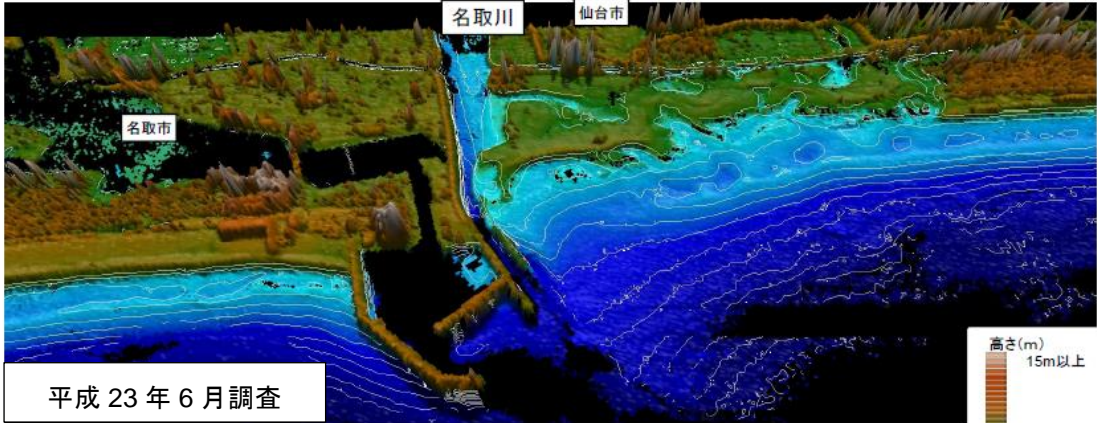
●測量機による調査

測量機に搭載した航空レーザー測深機からレーザー光を発射し、その往復時間を計測することによって、海底地形を面的に連続測定する調査です。測量船で調査することができない水深が浅い海域を、安全に効率良く調査することができます。東日本大震災における被害状況の把握にも活用されました。

航空レーザー測深機による調査（イメージ）



航空レーザー測深機による震災後の名取川河口付近の海底地形



【平成21年10月12日撮影】

【平成23年3月18日撮影】

海上保安庁初の測量機 MA871 「あおばずく」

政府による海上保安体制の強化の一環として就役した測量機MA871「あおばずく」
海上保安庁初の測量機として全管区の担任水域を担務し、我が国の沿岸域において
航空レーザー測量による海洋調査に従事する中型航空機



令和3年2月22日
仙台航空基地に就役



<形式：ビーチ350>

全巾	17.66m
全長	14.23m
全高	4.37m
重量	4,501kg
速力	約487km/h

<航空レーザー測深機>

総重量	約300kg
測深深度	約75m（高条件下）
特徴	グリーンレーザーと近赤外線レーザーを発信・受信解析
	100Mピクセルのデジタルカメラを装備し、1秒ごとの写真撮影が可能



第二管区海上保安本部

MA871「あおばずく」が行う海洋調査の特徴

航空レーザー測量による海洋調査

領海やEEZ外縁の根拠となる低潮線の開拓のため、海底の状況調査を行う

- ・ 海・陸の区別なく計測 → 低潮線・海岸線を **直接測定**
- ・ **高速**で**広範囲**に調査可能
- ・ 船が近寄れない**浅海域**が調査可能
- ・ 災害時の状況把握等への貢献



～搭載される最新鋭の航空レーザー測深機～
レーザー光を利用し、透明度が高い海域で
特に威力を発揮し、水深、地形等の計測